



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	グル-ブ学習の新しい方法-保健医療総論 -
Author(s)	笠井, 潔; 橋本, 伸也; 山田, 恵子; 中村, 真理子; 宮本, 重範; 乗安, 整而; 住吉, 蝶子; 大柳, 俊夫; 深澤, 圭子; 平野, 恵子; 門間, 正子; 大日向, 輝美; 中島, そのみ
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 6 号: 103-109
Issue Date	2003 年
DOI	10.15114/bshs.6.103
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6493
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n134491926103.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

グループ学習の新しい方法

— 保健医療総論Ⅲ —

笠井 潔¹, 橋本 伸也², 山田 恵子³, 中村真理子⁴,
宮本 重範², 乗安 整而², 住吉 蝶子¹, 大柳 俊夫³,
深澤 圭子¹, 平野 憲子¹, 門間 正子¹, 大日向輝美¹, 中島そのみ⁴

札幌医科大学保健医療学部看護学科¹

札幌医科大学保健医療学部理学療法学科²

札幌医科大学保健医療学部一般教育科³

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科⁴

要 旨

保健医療職を目指す学生の倫理的教育の重要性は近年、増している。平成14年度4月に新カリキュラムとして開講し、保健医療職の倫理に関する学習内容である保健医療総論Ⅲの目的・目標、学習方法、評価法について報告した。保健医療総論Ⅲは他の保健医療総論Ⅰ、Ⅱ及びⅣと一連の科目として位置づけられ、これらの目的・目標に共通したものも含んでいた。これを達成し、より学習を深める為に倫理的諸問題を抱えた実際の事例を含む3種の視聴覚教材学習を用い、サブグループ学習、グループ討議、全グループ合同学習という3つの学習形式を組み合わせる授業を行った。特に前2つのグループ学習は視聴覚教材の事例の役割に立つロールプレイ学習の要素を部分的に取り入れており、本学部にはない新しいタイプの演習であった。概ね授業計画をなし得たが、倫理的諸問題に関する課題探求能力育成の点など来年度に向けての課題が残った。

<索引用語>保健医療総論、倫理教育、グループ学習

Ⅰ はじめに

本学部では現在、平成5年の学部開設から8年間行ってきたカリキュラム（旧カリ）を改正し、平成12年度入学生から順次、新カリキュラム（新カリ）に移行しつつある。この新カリ策定時には21世紀の保健医療に向けて、新たに学部理念と8つの学部教育目標が掲げられた。その中で保健医療の総合的な教育を達成する為、一連の重要な科目として、3学科の学生が合同で履修する保健医療総論Ⅰ（1年）、Ⅱ（2年）、Ⅲ（3年）、Ⅳ（4年）の4科目が新たに設けられた。これら4教科は、保健医療の領域で対象となる人々に対し、総合的、包括的ケア

をなし得る様に職種との連携、保健医療の分野に従事する職種（以下、保健医療職）の倫理、課題探求や問題解決能力の向上を目的に学生が自主的に学習する教科目である。平成12年度入学生は障害者や高齢者等の疑似体験を学習内容とする保健医療総論Ⅰを入学早々の4月に学習し、2年次には3学科学生の混成チームによる道内の保健医療福祉施設実習を行った。そして、彼らは本年度4月に開講した、保健医療職の倫理に関する内容を目的とする保健医療総論Ⅲを学習した。今回、私達が計画、実施した、本学において今までにない、新しい形式の学内演習を採用した保健医療総論Ⅲの学習方法について、報告したい。

Ⅱ 学習の目的・目標

上述したように、保健医療総論Ⅲは単独の科目ではなく、他の保健医療総論Ⅰ、Ⅱ及びⅣと共に行われる、一連の科目のひとつとして、新カリ上は位置づけられている。従って、保健医療総論Ⅰ～Ⅳに共通する目的・目標を基盤とし、保健医療総論Ⅰ、Ⅱの学習内容を踏まえ、保健医療総論Ⅲの目的・目標の焦点を「総合的な視点と倫理性」に定めた。その内容は以下の如くである。

1. 目的

保健医療の社会的役割および規範の認識を深めるとともに、包括的援助を可能にする保健医療福祉の体系を理解し、保健医療職としての総合的な視点と倫理性を培うことを目的とする。

2. 学習目標

(1) 保健医療を取り巻く現代社会の課題について理解する。

- ①健康、疾病、障害観の歴史的変遷を理解する。
- ②保健医療における各職種の専門性とその成立の過程を理解する。
- ③バイオエシックスの問題や情報開示など保健医療職に求められる倫理を理解する。

(2) 現在の保健医療とこれを支える保健医療福祉システムについて理解する。

- ①保健医療に関する概念、方法論等を理解する。
- ②患者や障害者をとりまく生活・環境と保健医療の関係を理解する。

(3) グループ討議を通じて、保健医療職の倫理性や保健医療における包括的援助のあり方について自己の考えを明らかにすることができる。

目的にある、保健医療の社会的役割に対する認識、保健医療福祉体系の理解や保健医療職としての総合的な視点は学部教育理念や他の保健医療総論にも共通したものと考えられる。これを受けて、目標(1)の①や②及び目標(2)も各保健医療総論に共通しており、学年の進行と共にステップアップしていく目標と考えられる。保健医療総論Ⅲ独自の目標としては保健医療職としての倫理を培うことであり、保健医療職に求められる倫理を理解した上で、演習を通じて、その倫理について学生自らが考えていくことである。

Ⅲ 学習の方法

1. 概略

学習は他の保健医療総論と同じく、1週間(5日間30時間)の集中学習形式で行われるが、学内演習がその中心であり、「講義→演習→講義→全体の総括」という形で授業を進めた。演習の前後に演習の導入と学習目標(1)の達成の為に講義は以下の通りで

ある。第1日2、3講目に健康・疾病・障害観の歴史的変遷及び保健医療の専門性と職種の成立(リハ職と看護職)に関する講義を、4講目に保健医療職の倫理に関する概論的な講義を行った。第5日2講目に患者・障害者の人権に関する講義を、3講目に包括的援助と保健医療職の倫理に関するまとめの講義を行った(表1)。

演習方法は第1日のオリエンテーションと講義の後に、3年生全員をAグループ、Bグループ、Cグループの3つに分けて、各グループが3つの学習主題を含

表1 保健医療総論Ⅲ 授業日程(学生のAグループの場合)

第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	
オリエンテーション	サブグループ学習 (第1教材)	サブグループ学習 (第2教材)	サブグループ学習 (第3教材)	全グループ合同学習の準備	9:00
講義 (健康・疾病・障害観の歴史的変遷)	グループ討議 (第1教材)	グループ討議 (第2教材)	グループ討議 (第3教材)	講義 (患者・障害者の人権)	10:10
講義 (保健医療の専門性と職種の成立)	グループ討議	グループ討議	グループ討議	講義 (包括的援助と保健医療職の倫理に関するまとめ)	11:20
講義 (保健医療職の倫理)	グループ討議	グループ討議	グループ討議	全グループ合同学習	13:30
演習開始 視聴覚教材学習 (第1教材:安楽死に関する内容)	視聴覚教材 (第2教材:医療過誤に関する内容)	視聴覚教材 (第3教材:生殖医療に関する内容)	レポート作成についての説明	全グループ合同学習	14:40
サブグループ学習 (第1教材)	サブグループ学習 (第2教材)	サブグループ学習 (第3教材)	全グループ合同学習の準備	全グループ合同学習 (後かたづけ)	15:50

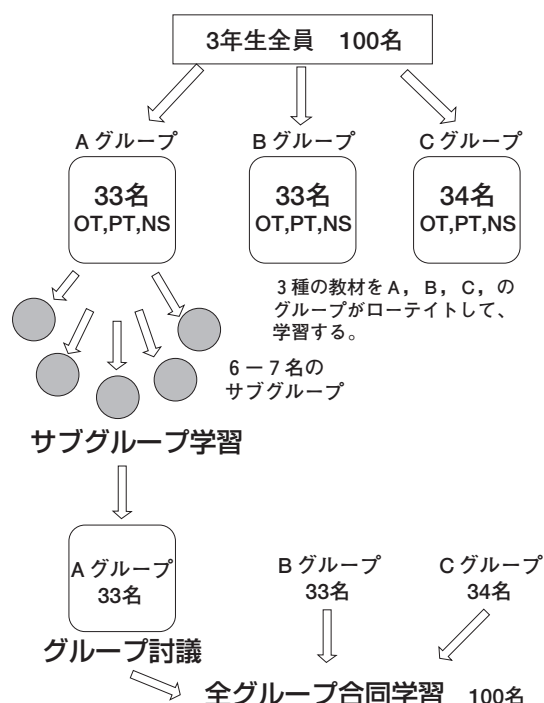


図1 保健医療総論Ⅲ 演習の概要

む視聴覚教材を順次、ローテイトして、学習し、演習を行った(図1)。すなわち、Aグループは第1の視聴覚教材の学習から第2、第3教材の学習へ進んだ。Bグループは第2視聴覚教材の学習から第3、第1教材の学習へ進んだ。またCグループは第3視聴覚教材の学習から第1、第2教材の学習へ進んだ。なお、各グループは看護学科、作業療学科、理学療学科の学生をA、B、Cのグループ間で均等になるように編成した。また、学習教材に関連したキーワードや参考文献を含む資料を春休み前のオリエンテーション時に全員に配布し、事前に予習させた。最終日の5日め午前の講義を受講した後、3年生全員はひとつの教室に集合し、学習を終えた3視聴覚教材に関する、討議の内容を互いに発表し、討議の総括を行なった。以下に各グループ毎に行った演習形式を記すが、1グループは「視聴覚教材学習→サブグループ学習→グループ討議→全グループ合同学習」の順に演習を行った。

2. 視聴覚教材を用いた学習

現在の保健医療職に必要な倫理や保健医療が抱える問題に関し、学生の理解を深め、学習の契機となるような以下の3種類の視聴覚教材をもとにして、演習を進めた。第1の視聴覚教材はNHK教育テレビETV2000(平成13年放映)の安楽死に関する内容の番組であり、米国オレゴン州における呼吸器疾患の末期患者とその在宅ターミナル医療に焦点をあてている。その中で患者の安楽死を含めた自己決定権、安楽死に関するオレゴン州法(メジャー16)を解説し、その是非について、日本人の2名のコメンテーター(ホスピス医師、生命倫理学者)が自分の経験や意見を述べて、視聴者に問いかけている教材である。第2の教材はイギリスBBC製作の医療過誤の原因と対策を取材したドキュメンタリー番組(平成12年放映)である。イギリスやアメリカにおける医療過誤事例の数件をとり挙げ、その経過を関係当事者への取材と再現映像で追いつつ、各事例の原因を問い、その対策のあり方を提言している。医療過誤の様々な原因や背景要因を考えると共に、医療従事者に求められる職業倫理や、医療過誤の予防および対応について理解を深める内容の教材である。第3の教材はNHK教育テレビ 驚異の生命スーパーヒューマン(平成13年放映)であり、嚢胞性線維症という遺伝性疾患遺伝子を持つ英国人夫婦が健康な子供を持つために、体外受精、受精卵診断、胚移植に取り組む姿とそれをサポートする医療従事者を中心に描いている。加えて第三者ドナー卵子の使用、卵巣の凍結保存と再移植、胚性幹細胞技術とその応用、精子に対する遺伝子治療など、近未来の生殖医療(工学)の可能性について解説している。

これら3教材に共通する特徴は生命倫理的な問題を抱える1例ないし複数の実際の事例を中心に内容がま

とめられていることである。第1教材をとり入れたねらいは患者の自己決定権やインフォームドコンセントを理解すると共に、安楽死の是非を学生が討論することである。第2教材では医療過誤の原因等やその予防及び対応を理解し、保健医療職に求められる職業倫理を討論することをねらいとした。第3教材では自己決定権やインフォームドコンセントの理解と共に、生殖医療(工学)の是非を学生が討論することをそのねらいとした。

3. サブグループ学習、グループ討議及び全グループ合同学習

学生による演習はサブグループ学習、グループ討議及び全グループ合同学習の3種類のグループ学習から構成されている。3年生全員を三十数名からなるAグループ、Bグループ、Cグループの3つに分けたが、このグループでひとつのテーマについて発表及び討論を行うのがグループ討議であり、その前段階として、6-7名の少人数のグループでテーマについて学習するのがサブグループ学習である。全グループ合同学習は最終日午後に行う3年生全員による発表、討議及び総括である。以下にその詳細を述べる。

(1) サブグループ学習

演習のはじめにA、B、Cのグループ毎に、それぞれのテーマに沿った視聴覚教材をグループ全員で学習した(第1日、第2日、第3日の5講め)。次に以下の様に各グループ内で少人数(6-7名)によるサブグループ学習を行った。第1から第3の視聴覚教材に含まれる事例に登場する各役割(立場)に学生を分け、サブグループを編成した。第1の視聴覚教材では、患者、家族、看護職、リハビリテーション職(リハ職)、オレゴン州住民、医師及び司会者のサブグループに分けた。第2視聴覚教材では、看護職、リハ職、医療過誤被害者及び司会者のサブグループに、第3視聴覚教材では看護職、医師、生命倫理学者及び司会者のサブグループに分けた。各サブグループ内でそれぞれの立場(役割)に立って、倫理的問題に関する学習とそのサブグループで採るべき主張や意見について討議を行った(第1日、第2日、第3日の6講目及び第2日、第3日、第4日の1講目)。なお、指導教員が1つないし2つのサブグループを指導したが、サブグループごとに司会者(1名)、記録者(1名)を決めて、司会者が中心となり、自由な討論を行い、討議のまとめを記録者が行い、発表内容(学習内容、各自の主張、問題点等)をまとめ、グループ討議の際の発表資料(配布資料、OHPやパワーポイントのスライドショー等)を準備した(図2)。

(2) グループ討議(第2日、第3日、第4日の2、

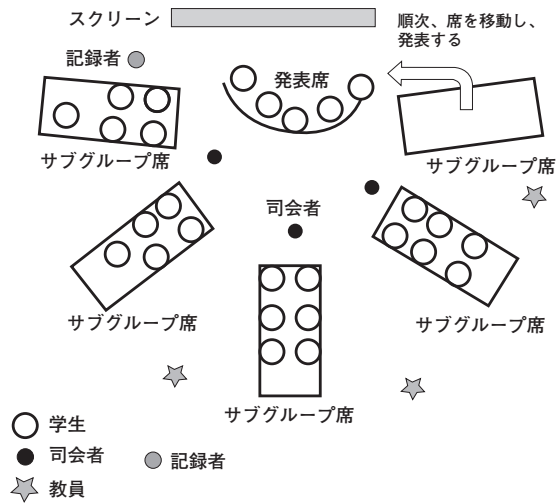


図2 サブグループ学習、グループ討議について

3、4 講目)

グループ討議ではサブグループ学習をおこなっていたグループ全員が再集合し、患者、家族、看護職、リハ職、医師等の立場にたち、学習・討議したことを順次発表して、意見を述べ、討議を行った。グループ討議に際しては学生の司会者（2名）、記録者（2名）を選び、司会者がサブグループの立場やその発表者を紹介し、発表後に質疑応答などを進行了。自由な質疑応答を原則としたが、質疑応答が少ない場合には必要に応じて、司会者が指名し、質疑を促した。各サブグループ発表後の討議では司会者と各サブグループの発表者が進行の中心となるが、それ以外のメンバーも積極的に他のサブグループに質問し、意見を述べた。最後に討議で出された、様々な意見の集約を試みたが、特にひとつの結論とすることは避け、各々の意見をカテゴリー別にまとめたり、列挙することにとどめた。記録者がこのまとめを作成し、全グループ合同学習に向けての発表資料を作成した。

(3) 全グループ合同学習（第5日4、5、6 講目）

第5日午前3年生全員はひとつの教室に集合し、患者や障害者の人権に関する講義を受講した。その後、3年生全員が学習を終えた3つの教材について、A、B、Cの各グループ討議の内容をグループごとに順次発表し、討議した後、各教材に関する総括を行った。発表はグループ討議を担当した司会者が行い、全体の司会は教員が行った。

Ⅳ 成績評価

評価は出席状況、グループ討議の発言や参加態度、レポートより総合的に評価したが（表2）、各学生の演習時の評価とレポート評価を各々50%として、合算して成績評価とした。演習評価には、サブグループ学習での積

表2 保健医療総論Ⅲ 演習評価

評価の視点	評価		
	A	B	C
サブグループでの学習活動を積極的に遂行していくことができる。	A	B	C
グループ討議における発表やその準備を十分に行うことができる。	A	B	C
グループ討議において自分の意見や考えを述べるができる。	A	B	C
グループ討議において他者の意見や考えを聞き、理解できる。	A	B	C

※評価基準

A：十分できた。指導のもと、学習目標への到達度が高い。
B：できた。指導を受けているが、学習目標へ到達するには課題が残る。
C：努力を要する。指導を受けているが、学習目標へ到達するにはかなりの努力を要する。

表3 保健医療総論Ⅲ レポート評価

評価の視点	評価		
	A	B	C
保健医療に関する以下の点について理解できている。 保健医療職に求められる倫理 保健医療に関わる概念や方法論 患者や障害者をとりまく生活・環境と保健医療の関係等	A	B	C
自分の意見や考えが述べられている。	A	B	C
文献に裏づけされて、記載されている。	A	B	C
レポートは学習要項の規定にのっとり記載できている。	A	B	C

※評価基準

A：十分できた。指導のもと、学習目標への到達度が高い。
B：できた。指導を受けているが、学習目標へ到達するには課題が残る。
C：努力を要する。指導を受けているが、学習目標へ到達するにはかなりの努力を要する。

極的な学習遂行、グループ討議における発表や意見や主張などの発言を主な視点として、各サブグループを指導した各教員が個別に評価を行った。また、レポート評価では保健医療に関する理解の程度、自分の意見や考えの記載及びその文献による裏づけ、学習要項のレポート規定の遵守を評価の視点とし、科目運営担当者の4名の教員が分担して評価した。演習評価とレポート評価共に評価基準はA（十分できた）、B（できた）、C（努力を要する）の三段階で行った（表2、3）。この評価基準で全学生の演習評価及びレポート評価を行い、全員が単位を取得した。

Ⅴ 考 察

保健医療総論Ⅲでは、サブグループ学習、グループ討議という2種のグループ学習の形態を組み合わせ、授業を進めた。また、最終日には全グループ合同学習という一斉学習を行い、これらグループ学習の学習内容を総

括した。旧カリでは、生命倫理に関して、3学科学生に対する教育は講義主体の生命倫理学及びグループ学習（十数名）による医学概論で行われていた。しかし、これらの授業、特に生命倫理学では学生が学習に対して受動的であり、医学概論では1グループの人数が多い為、学生によって主題に対する学習の深化が不十分という問題点があった。これらの点を改善する為に、少人数学習や学生間討論を通して主題に対する理解を深めていくことを考えた。本演習で行われたサブグループやグループによる学習の利点としては、学生が授業に対してより積極的に関わるようになり、学習や討論の中で医療倫理に関する知識の定着をより確実にし、テーマに関する自己の考えをより明確にでき、かつ深めることができることが挙げられる。また、他者を尊重し、彼らの意見や考えの良い点を受け入れたり、逆に批判的に考えることも可能となり、互いにそれまでにない新しい意見や考えに到る可能性もあると考えられた^{1), 2)}。しかし、開講前には事前の学習が不足した学生や元来討論等に消極的な学生にはグループ学習のこのような利点を生かし切れない可能性も十分考えられた。その対策として、2年次終了前に事前オリエンテーションを一度行い、視聴覚教材の資料や生命倫理に関する用語、基礎知識の資料を配付し春休み中に十分、予習ができるように促した。

また、保健医療総論Ⅲの演習にあたっては、倫理的諸問題を抱えている実際の事例に関する視聴覚教材を学習することから開始した。既に、看護教育等では、生命倫理学の学習導入にこのような、視聴覚教材を用いて行うことがより効果的であることが報告されている³⁾。本学部の学生は卒業して、専門的な職業を目指す為に、一般の文系や理系の4年制大学の3年次学生と比較するならば、学習に対するモチベーションの低下はより少ないと思われるが、1年、2年と在学するうちに入学時の自己の目標を見失いがちになり、学習意欲の低下が次第に起きてくることは否めないと思われる。その対策のひとつとして、より具体的内容を持ち、観る者の心の琴線に触れ、感動を深める内容の視聴覚教材を集め、選択して用いた。感性に富む学生が様々な倫理的問題を抱える実際の事例やその取り巻く周囲の状況があるがままに感じとることは、その後に続くグループ学習の契機となり、学習に対する参加度を高め、討論による学習の深化に有用と考えられた。

更に、医療職の倫理教育には、実際の事例を用いて、学生が互いに演じ合うロールプレイ学習は教育効果が高く、有用であると報告⁴⁾されていた為、視聴覚教材の事例の登場者をサブグループ学習の中にロールプレイの要素として取り入れた。サブグループ学習やグループ討議は学生を役割に振り分ける点ではロールプレイ学習形式にも一部類似している。しかし、本演習では学生が実際にはその役割を演じることはなく、患者、家族、看護職、

リハ職、医師等の役割に立って、その役割に必要と思われる意見や主張を考える点でロールプレイ学習とは異なっている。従って、本演習はロールプレイ学習要素を取り入れたサブグループ学習やグループ討議及び全グループ合同学習の3つを組み合わせた新しい学習形式と考えられる。その結果、学習に対する参加度が高まり、卒業後の自らに関わる問題として積極的に討論し、質問や意見の交換が活発に行われたと考える。何よりも学生が主体となり、演習が進行したことが特記すべきことと思われた。また、一般放送番組の視聴覚教材には教育的効果の高いものも含まれていることが指摘されているが⁵⁾、サブグループ学習やグループ討議にあたっては今後も適時、視聴覚教材の収集に努め、来年度以降もこの方向性を継続していきたいと考えた。

更に、21世紀の保健医療に関する教育では、今後、ますます問題解決能力や課題探求能力の育成が重要になっていくと考えられる。今回行った、短期集中的なグループ学習は各学科で3年次、4年次に行われるゼミ形式の専門科目学習に必須な学習技術の習得、すなわち、グループで協力して学習することやグループによる問題解決技術の習得に結びつくと思われた。課題探求の点に関して、保健医療総論Ⅲでは演習時に視聴覚教材と共に教員側から与えられた資料をもとに学生が演習を進めた為、学生はこの与えられた資料の内容に沿って課題探求を行った傾向があったと考えられた。課題探求の点で不十分であった可能性が残るが、これは演習時間の制約の関係から学習課題を深く探求していく為の文献検索等にあてる時間が十分でなかったことも強く関与していたと考えられた。これが来年度に向けた、教員側の今後解決すべき課題と考えられた。

謝 辞

ご多忙の中、保健医療総論Ⅲで演習に先立ち、講義をご担当くださった、故佐藤 剛学部長、稲葉佳江看護学科長、今井道夫医学部教授、旗手俊彦医学部助教授の諸先生に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 岡坂慎二：グループ学習の技術。東京、明治図書、1993, p58-103
- 2) ドナルド R. ウッズ。新道幸恵 訳：Problem-based learning. 判断能力を高める主体的学習。東京、医学書院、2001, p41-44.
- 3) 小松奈美子：生命倫理。学生をひきつける一般科目に。看護教育40：752-756, 1999
- 4) 白浜雅司：医療職をめざす学生の倫理的感受性をいかに育てるか。医学生への臨床倫理教育の経験から。看護教育41：260-266, 2000
- 5) 菅井勝雄 編著：「メディア」による新しい学習。

東京，明治図書，1995，p68－78

A new method of group learning -Health Sciences III-

Kiyoshi KASAI¹, Nobuya HASHIMOTO², Keiko YAMADA³, Mariko NAKAMURA⁴,
Shigenori MIYAMOTO², Seiji NORIYASU², Tyouko SUMIYOSHI¹, Toshio OOHANAGI³,
Keiko FUKAZAWA¹, Noriko HIRANO¹, Masako MOMMA¹, Terumi OHINATA¹,
Sonomi NAKAJIMA⁴.

¹ Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

² Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

³ Department of Liberal Arts and Sciences, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

⁴ Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Abstract

The importance of ethical education for nursing, occupational therapy and physical therapy students has increased recently. We planned and taught the course of Health Sciences III in 2002. This subject has a unique purpose in that students study the ethics of workers engaged in the health care system. We used 3 audiovisual aids, including several cases and combined subgroup learning, a group discussion and whole group learning to achieve the purpose and to deepen their understanding. The subgroup learning and the group discussion contained elements of role play and were new exercises in our school. Although we could not develop their abilities in problem solving dealing with ethical issues fully because they did not have sufficient time to refer to the literature in the exercises, we achieved most of the goals of the teaching program.

Key words: Health Sciences III, Ethical education, Group learning